



るうてる



2021年
3月
No.879

発行所 ■ 日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>
E-mail ■ jelc@jelc.or.jp

発行人 ■ 李 明生 koho@jelc.or.jp
印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

定価 ■ 1部 40円 (郵税を含む)
振替口座 ■ 00190-7-71734

説教 「四旬節第一主日の説教」

学校法人九州学院副院長・チャプレン 小副川 幸孝

「それから、霊はイエスを荒野に送り出した。イエスは四十日間ここにどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。」(マルコによる福音書一章12〜13節)

教会の暦では今日から

「四旬節」とか「受難節」とか呼ばれる季節が始まります。この四旬節の最初の主日では、教会では

イエスの荒野での誘惑の記事が伝統的に読まれてきました。それは、この

イエス・キリストの誘惑の出来事というのが、単なる誘惑や試練に打ち勝つというようなことではなく、私たちが生きていく

ということの全体に関わることに、特に、この世の苦しみや受難と深い関係があるからです。

マルコはこの出来事を簡潔に表現しています

が、マタイとルカによる福音書により詳しく、イエスはここで三つの誘惑を受けられたと記されています。第一は、イエスが

荒野で断食をされている時に悪魔がやって来て、「あなたがおもひ神の子なら、その石ころをパンに変えたら良からう」と

誘ったというのです。しかし、ここで注意深く聖書を読む必要があります

が、悪魔の誘惑の言葉というのは、パンを食べることではな

く、石をパンに変えることです。

つまり、生物的に生きるということそのものではなく、石をパンに変える

ような生き方のことが問題になっています。

二番目は、高い神殿の

屋根の上から飛び降りなさい。あなたが神の子なら、皆が支えてくれるだろう。神が守ってください

ら、皆が支えてくれるだろう。神が守ってください

るだろうという誘惑です。これは簡単に言えば、私

たちが、安心して生きるために神や信仰を利用してしまおうという誘惑です。

そして、第三番目は、あなたがおもひ神の子ならば、世界のすべてをあなたに委ねる。あなたは栄華の中に包まれ、高い地位を得ることが出来る。そういう誘惑です。



困ります。食べることに安心して暮らしていくということは、私たちが、むしろ、こちらから、そうしてもらいたいと思うようなことばかりです。

しかし、聖書はこれが誘惑だと言っています。これが何故誘惑なのかと言いますと、それは、イエス・キリストの十字架の場面

に出てくる人たちのことを考えてみるとよくわかります。十字架の場面に登場する当時の宗教的・政治的指導者たち、ロー

マの総督や兵士、そして大勢の群衆など、その人

たちの姿を見ると、こういう人たちの生活というのが、愛することではな

く、あるいは信じることでではなく、本当は恐れと不安に満ちていることに

気づかされるのです。豊かになりたいたがゆえに、安心して暮らしたいがゆえ

に、そして、他の人に認められたいがゆえに、恐れに捕らわれ、不安に捕

らわれていることに気づかされるのです。

さてそこで、イエス・キリストを見てみたいと思います。キリストの生涯

というのはどういう生涯だったかを考えてみましょう。イエスの十字架

と復活の生涯が示すのは、悲しみや苦しみを抱えても、なお、人は生きていけるし、貧しくても、

物が無くても、たとえ病気でなくても、能力が無くても、私たちが人間が幸

せになれるということをお教えるものです。イエスは、まさに、ただ神の愛

と恵みに堅く立つことで、本当に深く豊かな道を示されたのです。

私たちは、無意識に、聖書が誘惑として示した

ことを望んで、大切なものを失い、不安にかられ、恐れに駆られて生きていくのかもしれない。試練はいつもあります。苦しみはいつもあります。苦

お金がない、人から良く思われない、他の人から理解されない、いつも不安定で、不安の中に生きています。しかし、その中で神の言葉に立つことで本当に豊かに生きる道がある。私たちは、その神の言葉を聞きながら日々を本当に過すことができたいと思います。

⑫ どうして

伊藤奈奈



「イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、「ブライ語で、「ラボ」と言った。「先生」という意味である。」(ヨハネによる福音書20:16)

「皮肉な名前だね。」と病院へお見舞いに来た友達が私に言いました。「違うよ、私心が健康だから大丈夫だよ。」と友達に答えるように答えた私は自分で自分に驚きました。

私の名前は「いとうさあな」です。少し早めに生まれたので生まれてからしばらくの間、保育器に入っていました。両親は健康に育ってほしいとこの名前をつけてくれました。父によく「おまえ

の名前の「さあな」はイタリア語で「健康」という意味だと幼い頃から言われ、幼い頃は子ども心にその頃流行っていた名前のほうが良かったなあなんて思っていました。今はこの名前が大好きです。

「皮肉な名前だね。」と友達に言われたのは「この名前、イタリア語で「健康」って意味なんだって。」と言った時でした。私が意外に思った理由はその友達が看護師をしていることでもありません。名前が無い方はおられるでしょうか。何らかの形で出生に関わった人から一人ひとりが名前をつけてもらっていると思います。あなたに付けられた名前には意味が込められています。そして何よりも、あなたに命を与えて下さる神様があなたに名前を与えて下さり、あなたの命の名を呼んで下さいます。

ルーテルアワー 聖書講座 biblestudy.jp

東教区が運営する、聖書とキリスト教にはじめて触れる方のためのインターネットサイトです。スマートフォンにも対応。各教会の伝道のためにご利用ください。配布用カードが必要な場合は東教区事務所までお問い合わせください。

Twitter@biblestudyjp



3・11東日本大震災からちょうど10年、9・11同時多発テロから20年が経ちます。阪神淡路大震災、ルクソールテロ事件、尼崎線列車脱線事故などいずれも胸が張り裂けるほど鋭い痛みを伴う記憶

「天に向かって嘆き祈る」

「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。」（詩編130編より）

魂の痛みを伴う「Sacred Question」であり神との格闘です。どこにも腑に落ちるような答えを見出すことはできない。私たちは生涯をかけて答えのない問いと格闘し続けるほかないのでしょうか。

です。私たちはこのような出来事が起こると「なぜこのような悲劇が起こるのか」と天に向かってその不条理を嘆きます。なぜ神はこのような過酷な現実を許され、嘆き祈る者たちの声に沈黙しておられるのか。これは

ルクソール事件の翌日の新聞には犠牲となられた何組もの新婚カップルの笑顔の写真が掲載され、涙を禁じ得ませんでした。その後夕刊で吉田秀和氏の文章と出会いました。「私は愛する親しい人たちといつしよに幸せ

に生きていた時は、それを当然のように受け入れていたけれど、それがなぜ条理なのか。事故にあつたのが不条理なら、たまたまその電車に乗らなかつたのがなぜ条理なのか。両者は同じものの裏表、条理の上では区別できない。不条理の刃物に倒れるのが受け入れがたいというなら、その逆も本来、根拠がなかつたのだ。

ま、私は時を過ごして来た。その時、バッハが『曲』やカンタータの類いではなく、まず『平均律クラヴィーア曲集』全二巻。これをききだして、私はこの不条理の世界にも何かの秩序がありうるのではないかという気がしてきた。その秩序がどういうものかはわからない。きいたあととは不条理、無意味の苦い思いは消えず、また戻ってくる。

宇宙の秩序とでもいうべきものが存在しているのかもしれないという気がしてくる。「不条理と秩序」、『たとえ世界が不条理だつたとしても』朝日新聞社(2005より)。

基本的には、改訂式文と同じ構成ですが、聖餐の代わりに「感謝」という項を設けて、「招き」「みことば」「感謝」「派遣」となり「感謝」の部分には、み言葉を読み、神の恵みを受けたことへの応答として、「教会の祈り」を祈ります。全信徒祭司性とは、神の恵みを受け隣人に仕え、困窮する世界のために、私たちが祭司的な役割として執り成しをする

仰者の「しるし」の祈りです。福音を聞き、改めて弟子とされて、新たな気持ちで派遣されていく、その決意としてここで祈られます。エキュメニカルな交わりを大切にするために、日本聖公会／ローマ・カトリック教会共通口語訳(2000年)を採用しています。これまでのNCC口語訳、以前の文語訳と共に選択肢を増やしました。日本の教会では、伝道地での宣教でもあり、長く「聖餐のない礼拝」が行われてきましたし、また現状では、牧師が常駐しない教会での信徒礼拝も多く行われています。そんな場合も、省略ではなく、そのための「み言葉の礼拝」が守られていくことが大切です。

「教会讃美歌増補解説」



⑧ 讃美歌委員からの声(4)

日本ルーテル教団

教会讃美歌委員

安藤政泰

「言葉と音楽がひとつになる時」

懐かしい歌を聴くと、その時のことを思い出します。良く歌った童謡を聴くと、声を出さなくても歌っています。

オルガン用の曲には、ル

増補版讃美歌集の特徴の一つは、ルターの讃美歌(コラール)が収納されていることです。その歌詞は神への賛美と共に、教育的にも配慮されています。礼拝でその讃美歌を共に歌う時、自分が洗礼を受けた時に学んだことを思い起こす歌詞に出会います。

また、「讃美歌」は礼拝の中で自分が歌うだけでなく、他の人が歌うのを聴くこともあります。隣の人の歌うのを聴く、聖歌隊の歌う賛歌を聴く、オルガンの前奏を聴く、ということ

ターのコラールをもとにした前奏曲が多くあります。その中で特に有名なのがJSBachのコラール前奏曲と言われ、コラールの旋律を使って作曲された楽曲です。

例えは増補版にも収録されていますが、「主の祈り」の讃美歌(コラール)を主題とした前奏曲があります。自分で歌ったこともある曲で、その旋律も歌詞の大意も知っている、演奏を聴いたとき、歌詞を直接聞かなくても、旋律と共に、その歌詞が思い起こされます。奏でられる旋律をとおして、自分も賛美

を共にしています。礼拝で自分が直接声を出し、歌うのでは無くても、確実に楽器の演奏と共に、自分もその演奏の一部となり、神を賛美しているのです。

言葉と音楽が一体となるのは、自分が直接声をだして歌う時にだけ起こることでは無く、聴いた音楽に心を寄せるときにも起こり、共に神を賛美しているのです。ルターのコラールと親しまし、賛美と学びを共に

今回の式文改訂では、聖餐を伴わない礼拝のために「み言葉の礼拝」が新たに提案されました。現行の礼拝式文(いわゆる青式文)では、「奉献の部」の終わりに、「聖餐が行なわれないとき」は、「ここから派遣の部」へ続く旨を指されています。

私たちの礼拝



⑧ み言葉の礼拝

松本義宣

(式文委員会委員長・東京教会牧師)

これは、礼拝での聖餐の重要性を主張する今回の改訂式文とは、矛盾のように思われるかもしれませ

ん。確かに、宗教改革以降、時代の背景から、より「説教」を重んずる傾向が強まり聖餐式を行わなくなつたのも事実ですが、それと

は別に、一方ではルーテル教会でも「説教礼拝」の伝統があること、殊にこの「コロナ禍」での礼拝を再認識、再構築していく際にも重要なことだと思われ

ます。基本的には、改訂式文と同じ構成ですが、聖餐の代わりに「感謝」という項を設けて、「招き」「みことば」「感謝」「派遣」となり「感謝」の部分には、み言葉を聞き、神の恵みを受けたことへの応答として、「教会の祈り」を祈ります。全信徒祭司性とは、神の恵みを受け隣人に仕え、困窮する世界のために、私たちが祭司的な役割として執り成しをする



訂正

2021年2月号の面聴

議長室からの文中で編集過程でのミスによる誤植がありました。執筆者にお詫び申し上げますとともに、以下訂正いたします。

4段目後から3〜4行目

(誤)口語訳聖書(1995)

(正)口語訳聖書(1995)



パンデミックの中のダイアローグ

社会福祉

ベタニヤホーム状況報告

理事長 綱 春子
(聖パウロ教会)

1. 法人としての取り組み

2020年1月、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のメディア報道が耳に入り、次第に都内の感染が拡大していく中で、当法人も2月より関係機関と連携を持ちながら、新型コロナウイルスに
関する情報を法人内で共有し、職員及び利用者等を含めて罹患防止に努めました。

保育園3園・母子生活支援施設1施設の保育業務と母子の生活支援業務において、基本的習慣として検温、マスク使用、手指消毒、一定の距離を置く、不要不急の外出を控える等について保護者にも協力をお願いし、施設内及び備品・遊具の消毒にも気を配り、職員は本来の業務の合間に特に注意して皆で取り組んでいます。
第1波のあった緊急事態宣言下においては感染は回避できました。

保育を要する家庭に代わる乳幼児の生活と養護及び保護者の就労支援を担う保育園は原則として休園はできないのです。

母子生活支援施設においても、徹底した感染予防対策を講じ利用者には守って行動することをお伝え協力をお願いしました。利用者の生活の場ですから決して罹患させてはなりません。クラスターを絶対避けなければなりません。

職員のシフトは細やかに考慮し、通勤時間帯や通勤ルート等についても非常事態になった時の勤務体制を施設長を中心に綿密に対応策を講じました。園長・施設長はじめ職員たちは必死に働きました。

しかし、残念ながら第2波のピークを向かえる頃の7月22日、本部隣接の保育園で2歳児クラス園児1名と職員3名が感染していることが、医療機関の届け出及び保健所の検査により陽性(無症状)が判明し、7月23日から8月5日までやむを得ず休園しました。

罹患者の出たクラス
の園児と全職員のPCR
検査を実施し、保育再開後も利用者及び家族、
職員等の健康チェック、
観察を継続しながら、3
密の回避、検温、マスク
の着用、手洗い励行、清
掃・消毒等、一層の感染
予防対策徹底のうえ通
常業務を行いました。

また、職員・保護者の
体調不良の連絡が入る
度にPCR検査受検を
お願いし、濃厚接触の可
能性がある職員は2週
間特別休暇で自宅待機
を命じました。この間、
園は毎日、職員から健
康観察の報告を受け状
況把握に努めました。

感染ルートは確定で
きませんでした。多く
の方の出入りがある保
育園では感染拡大は避
けなければならぬ試
練の連続でした。法人内
の罹患者累計は園児2
名、職員3名にとどま
りましたが、感染拡大を
防ぎたい。職員が丸
ごと対応してきたこ
と、そして保護者・利用
者のご理解とご協力を
いただき、職員の働きを
信頼してくださったから
です。

関係者の皆様方に多
大なご心配とご迷惑を
おかけしましたことを、
改めて心からお詫びし
ますとともに、ご理解ご
協力に感謝いたします。
8月14日、職員より
新型コロナウイルスに感
染したご家族が亡くな
られた旨の連絡が入り
ました。言葉で言い表せ
ない悲しいことにも遭遇
しました。その職員とご
家族の上にごのお慰めと
平安がありますように
お祈りいたします。

2. 関係機関・関係者の
皆様へのお知らせにつ
いて
①自治体、保健所との
連携(相談、指導、報告)
②保護者・地域・学校等
③日本福音ルーテル教
会東教区教会、関係施
設等、これらへのお知
らせは、法人ホームページ
(第1報から第6報ま
で)、メール、電話、お
手紙、掲示、園児連絡帳
等により行ないました。
法人役員、保育園・施設
ともに状況報告と感染
予防対策の再確認を
行うとともに共有し、各
現場で職員は実践に励
みました。

3. 職員の働きと処遇に
ついて
法人では、常勤・非常
勤すべての職員が安心
して働けるよう、有給休
暇や傷病等による休暇
では対応できない特別
休暇の取り扱いと所得
補償について早々に検討
し、整えてまいりました。
具体的には、所得補
償の面では、国の既存の
制度や小中学校等の休
校に伴う助成金など、
新たに設けられた助成
制度の活用や自治体の
補助金を活用して危険
手当の支給等を行って
まいりました。また、休
暇の取り扱いについて
は、法人の服務に関する
既存の規程の見直し・改
正を行い、様々な状況に
応じて必要な休暇を付
与できるように整備し、併
せて職員への周知を図
りました。

2021年に入り第
3波を迎えた現在、感染
経路の特定ができず労
災認定の申請が行えな
い職員への対応、罹患後
の療養期間が終わり職
場復帰に際して、これま
であつたPCR検査受検
が不要となったことで不
安を抱く職員や迎え入
れる職場の対応など、保
健所等の対応や指示も
状況が変ってきていま
す。療養中や回復後、職
場復帰後も想定できな
かった状況が発生してお
り、法人として引き続き
対応が求められています。
4. チャプレンのお支え

とメンタルケアについて
新型コロナウイルスの
感染拡大第3波は収ま
るところを知らず、子ど
も達・職員自身と家族
利用者の健康と命を守
ることへの緊張と恐れと
不安により、誰もが経験
したことのない精神的疲
弊と強いストレスに襲わ
れながらの日々を送って
おります。

特に、職員のメンタル
面への支援が必要で
すが、私たちの法人には、
傍にいてくださるチャ
プレンから頂くみ言葉が
心の支えになっていま
す。それでもいつ終息す
るか先が見えない中での
保育と母子支援業務は、
職員の緊張と不安感の
中に今も続いています。

新型コロナウイルス禍の中で、
教会と施設は地域社会
にあつて常に「感染しな
い、感染させない」とい
う社会的責任が伴いま
すので、連携して細心の
注意を払うことが大切
だと考えます。やるべき
ことをやって後は主にお
委ねするのみです。

スクに牧師手作りのみ
言葉カードを添えて
「シャロームマスク」を
献品頂きました。
○近隣に住む方からも、
素敵な手作りマスクが
沢山届きました。
○主日礼拝(リモート、
フェイスブック、郵便配
布)の説教やCSメッ
セージ、牧師手作りのみ
言葉カードが法人各施
設及び法人本部へ届け
られました

○CSメッセージに添え
る絵は法人施設から保
育士の描画奉仕がなさ
れています。
○各保育園・施設の担
当チャプレンによる子ど
も礼拝が定期的に行わ
れています。また、職員
の昼礼時に時折チャ
プレンの参加で祈りの時が
持たれています。

5. ベタニヤホームと教
会と地域の支援について
○ベタニヤホームの働き
を覚えて聖パウロ教会
会員の祈りが毎度捧げ
られています。
○教会会員の手作りマ

人の心を癒し、立ち上
がる力となります。
新型コロナウイルスにあつ
て、教会礼拝は形を変
えて継続しています。
このような時にも小さ
なことですが、教会は
み言葉の種まきをベタ
ニヤホームに関わる人
や地域の方々に向けて
行われているのです。

○法人創立記念日・東
京大空襲犠牲者追悼記
念礼拝、法人職員クリ
スマス礼拝(永年勤続者表
彰)等を聖パウロ教会及
び各職場にてリモート
により実施、各施設長
等が最少人数で礼拝に
参加しています。
○母子生活支援施設の
子ども祝福礼拝でプレ
ゼントを頂きました。

み言葉を通してのお
支えは、不安と恐れと疲
勞でくじけそうになる



北側から見た新棟



2020年6月に完成した新棟



新棟1F地域交流ホール

アメリカ病院聖職者 チャプレン報告①

関野和寛

2020年7月より日本福音ルーテル教会の留学制度と共に渡米し、ミネソタ州の Abbott Northwestern Hospital (アボットノースウェスタン病院)にて病院聖職者チャプレンとして勤務をしています。信徒、牧師、神父、イスラム教指導者合計14名のいるチャプレンチームの一員として週5日の勤務にあたっています。



一部屋訪ねるごとに着替えるため、一日5、6回着替えることに

日あたり100万円かかるケースもあります)など幾つもの不安の中で過ごしています。

その中でチャプレンは全身防護服を身に付けて、患者さんの苦しみに寄り添います。向こうからは目元しか見えませんがそれでも手をとり祈ります。小さな祈りのひと時です。けれども患者さんが人間的なコミュニケーションをとれる唯一の時間でもあります。

またこの半年の間に何人もコロナ患者さんたちの死に立ち合いました。面会謝絶の為、患者さんたちの家族はスマートフォンやタブレット端末で病室内と自宅をインターネットで繋ぎ、その中で大切な家族を看取らなくてははいけない苦しい現実があります。だからこそチャプレンはその傍らで家族の代わりには決してなれないけれども、それでも人として患者さんの横に立ち続けます。そしてこの闘いはまだ続いていきます。

その中で患者さんたちは自分が本当に回復できるのか、家族や周りに自分が原因で感染を広げているのか、医療費は払えるか(集中治療室だと1

極めて過酷な現場です

が、このような場所でも多くの事を吸収し、将来的にはこの病院聖職者チャプレンの働きを広く日本、そしてアジアに伝えて行く事が使命だと感じています。どうぞ皆様への応援をよろしくお願いいたします。

世界の教会の声

浅野直樹Sr.
(世界宣教主事
市ヶ谷・スオミ教会牧師)

またこの半年の間に何人もコロナ患者さんたちの死に立ち合いました。面会謝絶の為、患者さんたちの家族はスマートフォンやタブレット端末で病室内と自宅をインターネットで繋ぎ、その中で大切な家族を看取らなくてははいけない苦しい現実があります。だからこそチャプレンはその傍らで家族の代わりには決してなれないけれども、それでも人として患者さんの横に立ち続けます。そしてこの闘いはまだ続いていきます。

世界ルーテル連盟(LWF)がベラルーシのウラディミール・タタニコフ牧師にインタビューした記事(2021年1月15日公開)を2回に分けて紹介します。
(元の記事のURL)
<https://www.lutheranworld.org/news/belarus-pastor-grateful-solidarity-and-prayers>
ウラディミール・タタニコフ氏は、ベラルーシ内の全ルーテル教会を牧会

する唯一の牧師です。

ベラルーシでは2020年8月の大統領選挙以後、抵抗運動が絶えません。ベラルーシの西方ポランドとトリトニア国境近くにあるグロドノ市内に、タタニコフ牧師が牧会する一つの教会があります。過去数か月を振り返って、タタニコフ牧師が自身の経験とベラルーシのルーテル教会の現状について語ってくれました。

「2020年8月の大統領選挙直後の状況はいかがでしたか？」

「その通りです。抵抗運動は続きました。8月以降3万人が逮捕され収監されました。さらに多くの人々が仕事を失ったり、大学を退学させられました。反政府運動をしたことで有罪となつたのです。ベラルーシのいくつかの都市にルーテル教会があります。首都ミンスクでは抗議活動の影響で地下鉄が止まり、市街地も閉鎖され交通がストップしてしまつたので、教会では通常の礼拝ができなくなり、そのような状況なので、パンを買いに出かけただけに、取り押さえられ、一晩留置場で過ごすなどといったことも起こりかねません。」

「ベラルーシのルーテル教会の歴史について教えてください。」

「ベラルーシで最大の教会は正教会です。カトリックがそれに続きますが、大きくはありません。福音ルーテル教会はとて小さく、マイノリティの教会として複雑な歴史があります。第二次世界大戦前、グロドノの教会はワルシャワ(ポランド)管区に属していました。戦後になつて共産党が教会を解散させ、教会堂は町の歴史資料館と化し、信徒たちはスターリン政権下のカザフスタンやキルギスタンに強制送還されてしまいました。今はミンスク、ビテプスク、グロドノにあります。教会堂を所有しているのはここグロドノの教会のみです。」

(以下、次号につづく)

東教区プロジェクト3・11
2020年度報告
小泉嗣
(千葉教会・津田沼教会)
集うことが制限される

中、私たちの教会では昨年8月2日の平和主日、第二次世界大戦を経験された方々に8月15日の思い出を寄稿していただき、「あの日、私は…」という小さな文集を作成しました。例年であれば教会学校の礼拝や主日礼拝の後で戦争体験や被爆体験を直接お話ししていただくのですが、コロナ禍の中で礼拝は続けていたものの、高齢の方に礼拝出席を強いることもできず、それでも何とか「平和」への思いを分かち合うための苦肉の策でした。寄せられた文章には8月15日の空の色や音、匂いなどを感じるような記憶が綴られていました。

2021年3月11日、おそらく緊急事態宣言は解除されてはいるでしょうが、だからといって新型コロナウイルスの流行が収まっているわけもなく、多くの教会が様々な感性防止対策を講じて教会活動を続けていることと思えます。そのような状況下で、東教区プロジェクト3・11は、一つ所に集う2011年の3月11日を憶えるプログラムを持つことを諦めざるをえませんでした。

そもそも2020年に予定していた現地訪問や研修などの活動自体出来なかったことをここに報告しなければなりません。

にもかかわらず、各地の教会・施設から計22万円の献金が寄せられ、「いわき食品放射能計測所のり」「いわき放射能市民測定室たちね」「松本こども留学」「ふくしまキッズケアパーク」「福島移住女性支援ネットワークEiWAN」に送金することができました。感謝して報告させていただきます。

50年以上前の記憶が一人一人の心に鮮明に残っているように、2011年3月11日の記憶は今もなお、それぞれの心に残り、刻まれていることと思えます。そして、刻まれた痛みや苦しみを、不安や悲しみを背負い日々を歩まれている方々が、新たな重荷を負われないよう、10年目の今年、集うことはできませんが、どうかそれぞれの地で自らの「あの日、あの時」を思い起こし、また痛みや苦しみを負う人々の「あの日、あの時」に思いをはせ、祈りをあわせていただければと思います。